

夏季の企画展「むし・虫・カブトムシ！展」開催について

(公財) 横浜市緑の協会 金沢動物園 ○安藤 正人

1 はじめに

金沢動物園では、市内の貴重な緑地に立地するという環境を活かし、夏季にはカブトムシなどの昆虫を題材とした企画展を開催し、身近な自然環境に関心を深めていただく機会を提供している。

平成 27 年度は上記企画展を「むし・虫・カブトムシ！展」と題し、平成 27 年 7 月 11 日（土）から平成 27 年 8 月 30 日の間、開催した。

2 事例紹介

夏季企画展「むし・虫・カブトムシ！展」は、園内複数箇所に昆虫を観察できるエリアを設けると共に、無料開放エリアの植物区にある「ののはな館」でも標本を展示し、さらに園内各所に昆虫をモチーフとした芸術作品を設置する等、昨年までと比較して規模を拡大させて開催した。

動物園の存在意義が問われる現代において、昆虫等を展示するに当たり最も気を付けた点は、珍しい昆虫をただ並べただけの展示にならないよう、可能な限り自然環境を再現した展示を創出することで、その展示昆虫の姿形、動き、作り込んだ周りの風景が一体となって、その向こうに広がっている本来の環境への想像を掻き立て、来園者に対して自然環境への理解を促す機会とすることを目指した（図 1、2）。

また、外国産の昆虫を展示することで、カブトムシやクワガタムシにも多種多様な種が存在することを実感していただくこととした（図 3）。加えて、外来生物をみだりに野生に放してしまうことが自然に与える影響等についても分かりやすいポスター等も交えて啓発を行った（図 4）。

「ののはな館」では、昆虫の精密画や標本の展示、活用しながら、身近でありながら、あまり知られていない昆虫に対する関心を深めていただける機会を提供した（図 5）。

また各所に昆虫をモチーフとしたオブジェを多数展示することで、企画展を広く PR する事が出来ただけでなく、園内の展示を充実させることが出来た（図 6）。



図 1 細枝につかまるミヤマクワガタ



図 2 洞に隠れるダイオウヒラタクワガタ



図3 展示場の様子



図4 外来種問題啓発ポスター



図5 「ののhana館」での昆虫精密画と標本の展示



図6 園内に設置した昆虫のオブジェ

3 開催結果

開催期間の来園者数は、32312名を数え、前年度の同期間に比べ、2904名増加する結果となった。また、一部期間に行ったアンケート（297名回収）では、97名の方に「良かった」と答えていただくとともに、「身近な生きものが見られた」、「珍しい動物、日本に古くからいる動物を展示しており興味が沸きました」等の好意的なご意見を多数いただいた。

4 まとめ

誰にとっても身近であるとともに子供に人気の高い昆虫をテーマにした事で、多くの来園者にご覧いただく事ができた。展示スペースでは、生体の展示だけではなく、各種ポスターのアイキャッチも良く、多くの方が立ち止まり読んでいる様子を見ることができた。見ている方々が自然と昆虫について、過去には多く見たが最近は見られなくなったことや、金沢自然公園内に多くの種が生き残っている点への感動について話されていた。

来園者に対して自然環境への理解を促す目的は達成できたが、来年度以降、より質を高めて開催することで、より多くの方の来園を誘発し、自然環境への理解を深める機会が提供できるよう努めていきたい。

本事例担当職員：堀口 由美子、和田 優子、正木 美舟、先崎 優
富内 健、繁成 美菜、佐藤 澄音、川原 みのり